

どうして姓を変えるのか？： アメリカ人の結婚観と家族の諸相

斎藤 理香

本発表では、アメリカ人の結婚後の姓 (surname) にまつわる調査研究、新聞およびTVニュースなどの資料をもとに、アメリカ人の結婚観やジェンダー観について報告した。

まずは、アメリカにおける結婚の法的な要件や手続きについて簡単に記す。アメリカでは、結婚しようとするカップル (同性婚も含む) は、marriage license (結婚許可証) を市町村レベルの役所から取得する。この許可証の有効期間 (州によって異なるが、1～3か月) 内に、一般的には僧侶や司祭のいる教会などの宗教施設で結婚式を挙げる。この他に、結婚を公的に証明できる資格を持った州の役人を立会人として結婚することもできる。結婚可能な年齢は、男女とも18歳である。

近年は、「結婚後に姓の変更を行うにはどうすればいいのか」「結婚したら、女性が姓を変えなければいけないのか」などの疑問があれば、簡単にウェブ検索ができる。そんなウェブの一つ、家族関係の法務にかかわる弁護士たちが監修する FindLaw.com には、「多くの人が、異性婚においては女性が男性の姓に変えるのがふつうだと思っているが、実はそうではない」とある。そして、女性には次のような4つの選択肢「1. 自分の姓をそのまま使う、2. 自分の姓と夫の姓をハイフンでつないで使う、3. 夫の姓を使う、4. 夫婦どちらの姓も使わず、まったく違う姓を夫婦二人で使う」がある、と続く。このウェブは主に、結婚後に姓を「法的に変更 (legally change)」するための情報を提供するものだが、姓を変更することについてのアメリカ社会の通念を表すのと同時に、姓の変更は個人の選択によるものだという考えを主張しているようでもある。また、このウェブでは、異性婚における選択肢は同性婚に

も応用できると言っており、特に Gay や LGBTQ に向けた他の結婚情報サイトでも、同様の4つの選択肢が掲げられている (theknot.com など)。

では、実際にどのくらいの割合で女性は結婚後に姓を変える、または変えないのだろうか。2013年に Huffington Post と YouGov (マーケット調査会社) が行った世論調査によると、結婚後に自分の姓を変えなかった女性は8%で、23%だった1990年代より、夫の姓に変える女性が増えている (Huffpost, 2013)。しかし別の Google Consumer Survey の調査では、2010年代には20%の女性が姓を変えず、この割合は18%だった1990年代よりもわずかに多い (New York Times, 2015)。このように数字が異なるのは、調査の対象や方法がまちまちだからであろうが、それでも間違いなく言えることは、調査の始まった1970年代から今日まで、一番多い時でも約2割の女性しか結婚後も自分の姓を名乗らず、約8割が夫の姓に変えているということだ。

次に、アメリカ社会における結婚後の姓に対する意識およびジェンダー観に関する研究を概観する。まず、1990年にアメリカ中西部の大学生258人に行った面接調査 (Scheuble & Johnson, 1993) によると、妻が夫の姓を名乗るのが一般的になったのは1930年頃までで、これ以前は、結婚後、妻に姓の変更を求めるような法は存在しなかった、という。1970年代には、妻に姓の変更を法的に求める州とそうでない州とが現れ、1990年は、妻が結婚前の姓を名乗ることが全州で合法となっている。しかし、法的に認められるとはいえ、この時期、妻が夫の姓に変更しないのは、世間一般の感情では受け入れがたいことだった。この研究では、女子学生が、一般に妻が結婚後も自分の姓を名乗ることについては寛容的な態度を示しつつも、自分が結婚する場合は夫の姓に変えるつもりだと答えていることから、女性の結婚後の姓の変更には、思想面と実行面の間にギャップがあると結論づけている。そのようなギャップを象徴する例が、第42代大統領の妻ヒラリー・ロダム・クリントンの“氏名変更履歴” (Graham, 2015) だろう。ヒラリーは、1975年にビル・クリントンと結婚した当初はヒラリー・ロダムと名乗っていた。だが、1980年、夫が2度目の州知事選に落選したのをきっかけに、夫の姓を付け加えて、ヒラリー・ロダム・クリントンに。これは明らかに、地元のアーカンソー州民に受け入れてもらうための戦略的な氏名変更だった。2008年に大統領候補と

なったときは、ロダムを消しさり、ヒラリー・クリントンとなった。キャリア・ウーマンの代表たるヒラリーも、実際は伝統的な氏名の慣習に従わざるを得なかったのである。

他に、調査対象者の性別、人種、年齢、学歴、結婚歴、子どもの有無、居住地域など人口統計学的属性と「性別分業」に対する考え方の違いが、結婚による姓の変更に対する意識・態度にどう関連づけられるかを調査・分析した Hamilton et. al (2011) のような研究がある。ここでも、女性の姓の変更には、考え方と実践の両方で保守的な傾向が見られ、また、「性別分業」に対する考え方の違いよりも、性別、人種、家族構成（子どもの有無）など、ほかの要素のほうが姓を変更するか否かに、より影響を及ぼす可能性があるという。この研究の一部を参照したウェブ記事 (livescience.com, 2011) では、女性が姓を変更するのは、夫婦とその子どもが同じ姓を名乗ることを希望し、個人のアイデンティティよりも家族の絆のほうに重きを置くからだと指摘している。ほかにも、Marketwatch.com (2017) が、女性が姓を変えるのは、子どもが母親の姓を名乗るのは稀だから、配偶者への愛情の印というロマンティックな考え方だから、変えない理由を詮索されるのが嫌だから、それまでの習慣だから、というような理由を掲げている。

以上のように、ジェンダーや性の平等について先進的なアメリカにおいても、結婚時に女性の約8割が自分の姓を捨て、配偶者の姓に変える。その理由は、姓の変更を個人の問題として捉える以上に、家族との関係を重視する傾向が強くなっていることが一因である、と推察される。

[参考文献]

FindLaw.com <https://family.findlaw.com/marriage/changing-your-name-after-marriage.html> (5/10/2019)

Graham, David. (2015) "A Short History of Hillary (Rodham) (Clinton)'s Changing Names: How the Democratic candidate's evolving self-identification tells the story of women in American politics." <https://www.theatlantic.com/politics/archive/2015/11/a-short-history-of-hillary-rodham-clintons-name/418029> (6/2/2019)

Hamilton, Laura et.al. (2011) "Marital Name Change As A Window Into Gender Attitude." *Gender & Society* 25 (2): 145-175.

Huffpost.com https://www.huffpost.com/entry/changing-your-last-name_n_3073125

どうして姓を変えるのか? : アメリカ人の結婚観と家族の諸相 (斎藤 理香)

(5/20/2019)

LiveScience.com <https://www.livescience.com/16813-women-husband.html> (5/10/2019)

(Kopelman, Richard, et. al "The bride is keeping her name: A 35-year retrospective analysis of trends and correlates." *Social Behavior and Personality*. Vol 37, Issue 5 (June 2009)

Marketwatch.com <https://www.marketwatch.com/story/why-so-many-women-still-take-their-husbands-last-name-2017-11-30> (5/10/2019)

New York Times.com <https://www.nytimes.com/2015/06/28/upshot/maiden-names-on-the-rise-again.html> (5/20/2019)

Scheuble, Laurie and David Johnson. (1993) "Marital Name Change: Plans and Attitudes of College Students." *Journal of Marriage and the Family* 55 (August): 747-754.

theknot.com <https://www.theknot.com/content/same-sex-marriage-name-change> (5/20/2019)

(さいとう りか・ウェスタン・ミシガン大学准教授)